

ゆずり葉の 木漏れ日

<特別支援・発達支援>

2025年10月15日発行

第5号

<http://www.yobokyoiku-academy.com/>

巻頭言

この夏、退職校長と現職校長が集まり「退職校長の現場支援について」というテーマで研修会を開催し、必要な支援について意見を交わしました。学校では働き方改革が推進されています。働き方改革の目的は、教員の負担を減らし、子どもと向き合う時間を確保することです。そのためには学校と地域が協力し合うことが欠かせません。

この度の公開シンポジウムテーマは「愛着（アタッチメント）」です。研究者、保護者、教員が理解を深め、子どものウェルビーイングの実現を目指します。

予防教育科学アカデミー理事 堀川 富美

ー公開シンポジウムのご案内ー

今更聞けない、でも知りたい

「愛着（アタッチメント）って何？ 何で大切なの？」

鳴門教育大学 教師のためのAI・DS研究開発センター（予防教育科学分野）・NPO法人予防教育科学アカデミー共催 公開シンポジウムを下記日程にて開催いたします。本シンポジウムでは、3名の話題提供者による「愛着（アタッチメント）」をテーマとした講演と、2名の指定討論者を交えたディスカッションを予定しております。生涯にわたって人の発達に多大な影響を及ぼし、私たちの幸せの基盤となるアタッチメント。その安定的な形成過程や発達段階に応じた支援のありかたについて、参加者の皆さまとともに理解を深め、意見交換ができれば嬉しく思います。交流の機会も兼ねておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

本通信では、シンポジウムに先立ちまして、当日の話題提供者および指定討論者のプレメッセージを掲載しております。ぜひ裏面も併せてご覧いただきますとともに、多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

日 時：2025年11月15日（土）14:00～15:30（最大16:00まで）オンライン（zoom）にて

*発言を希望されない方は、カメラ・マイクをオフのままご参加いただいて結構です。

プログラム：

1. 話のたね

- 山崎 勝之 今度こそ知りたい「愛着（アタッチメント）」の正体
平石 雄彦 子どものアタッチメントが大人になっても健康に影響するわけ
新井 悠希 不安定型アタッチメントは“よくない”のだろうか？

2. 素朴な疑問、広がる話の輪

- 永井 明子 研究者であり、母親である立場から
藤崎 由基 予防教育の担い手であり、母親である立場から

3. みんなで語ろう「アタッチメント」のひみつ

*参加は無料ですが、下記よりお申し込みが必要です。

<https://forms.gle/ReWvzVPt7kZFuo998> または QRコードからお手続きください。



「今度こそ知りたい『愛着（アタッチメント）』の正体」

話題提供 山崎 勝之

愛着（アタッチメント）は、かけがえのない親子の絆です。人は、誕生後数年は、特定の人にべったり依存し、大切に守られる経験が必要です。その経験により、自分は守られている、一人でない、という強い思いが心の中に芽生えます。それが芽生えると、最初特定の人がいなくても、一人で行動し、一人で冒険ができるようになります。人生は、予測のできない大冒険です。

このような状況は、安定したアタッチメントが形成された、と言えます。この経験が欠如すると、不安定なアタッチメントが形成され、不安になったり、他人を避けたりすることが多くなります。安定したアタッチメントを形成することは、本当に大切です。しかし、不安定なアタッチメントを持つ人も、その中で精一杯過ごしています。そう考えると、アタッチメントの見方が大きく変わりませんか。そんな、広く、多面的な、「愛着発達の理解」ができればいいな、と思い、お話しをいたします。

「子どものアタッチメントが大人になっても健康に影響するわけ」

話題提供 平石 雄彦

日々の行動の選択を、私たちはどのように行っているのでしょうか。例えば、友達とけんかをしてしまったときを想像してみてください。あなたは、そのまま絶縁してしまうかもしれません。もしくは、親しい誰かに相談して、仲直りに向かうかもしれません。その選択肢は様々あります。ところで、このような行動の選択は、誰が決めたことなのでしょう。そういわれると、「もちろん自分が決めたことである」と思うのではないのでしょうか。しかしながら、そのような行動の選択が自分の意志以外の何か（例えば、過去の他者との交流）に影響された結果かもしれないと聞くと、あなたはと思うでしょう。

「アタッチメント」とは子どものときに養育者との間で形成されるものです。しかしそれは、大人になっても影響を及ぼす可能性があるようです。一体どのような影響を及ぼすのか、その一端をお伝えできればよいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

「不安定型アタッチメントは“よくない”のだろうか？」

話題提供 新井 悠希

「どうしてそんなに大げさにするの？」「どうしてそんなに人と距離を取るの？」「自分の気持ちを猛アピールするAさんと、自分の気持ちを全く表現しないBさん、2人の違いは一体どこから来ているの？」

あなたは、こんな疑問を抱いたことはありませんか。このような個人差を説明する概念のひとつに、「愛着（アタッチメント）」があります。アタッチメントは、主に養育者との関係によって形作られ、「安定的なアタッチメント」とか「不安定なアタッチメント」とか言われます。一般的に、前者が望ましくて、後者はよくないとされます。でも、それは本当でしょうか。

なぜ前者はよくて、後者はよくないのか。そもそも、不安定型の人たちは、どうして不安定になる必要があるのか。そうした問いについて考えることなく、「不安定型は不幸だ／かわいそうだ／支援が必要だ」と思うのは、失礼な話です。“不安定なアタッチメント”について、一度、一緒に考えてみませんか。

研究者であり、母親である立場から

指定討論 永井 明子

これまでニホンザルの行動観察、子育て中の親へのアンケート調査、幼児の行動観察、児童へのアンケート調査と、複数の対象・手法で研究をしてきました。研究テーマにする事こそありませんでしたが、愛着は常に気になるテーマであり、考察のヒントを与えてくれました。折に触れて愛着関連の文章を読んできたことが子育てにも活かされてきたと思います。子ども達はそれぞれに気になる事（慣れない音を怖がる、目が合わない、気が散る、ぶきっちょ、理解力が心配、等々）もありましたが、発達段階に合わせて不安を減らす接し方を心がけてきました。本人達の祖父母や先生方、友人に助けられ、すくすくと成長してくれて今や下の子がもうすぐ成人です。今回、最新の知見を教えてもらい、皆様と経験談をシェアするのがとても楽しみです。

予防教育の担い手であり、母親である立場から

指定討論 藤崎 由基

私は科目等履修生として山崎先生の授業を受けていたことがある。ただのお母さんだったけれどある子どもたちの成長を見守る中で発達心理学を学びたくなったからだ。息子が小さな頃お母さんとして未熟だったからいっぱい怒っていた。なんでできないの！どうしてそんなことするの！そんな毎日だった。息子はどんどん自信をなくしていったように見えた。そんなとき学ぼうと思った。子どもがどんなふうにも成長していくのか学べば叱らなくてもよくなるかもしれない。そこが子育ての分岐点だった。それからは好きなことを好きなだけしてもらっていっぱい褒めた。今では息子は好きを得意にしてその得意に自信を持つようになった。

愛着って何だろう？

みなさんと一緒に考えたいと思います。



予防教育科学アカデミーでは、子育てや教育上の困りごとの相談を常時メールにて受け付けています。皆さまからのご相談に応じて専門家がご答えいたします。下記までどうぞご相談ください。

ご相談窓口：yobokyoiku.academy@gmail.com（お名前は必ずご記入ください）

【お問い合わせ】

特定非営利活動法人 予防教育科学アカデミー <http://www.yobokyoiku-academy.com/>

